



八咫鳥神社の拝殿 宇陀市で

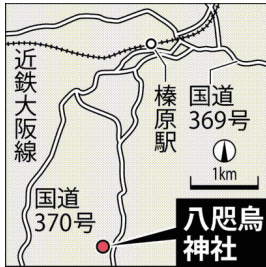


八咫鳥神社(宇陀市)

は、平安時代の神社一覽「延喜式神名帳」に記された、日本で初の八咫鳥を祭神とした神社です。古事記や日本書記によると、八咫鳥は、初代・神武天皇が日向(宮崎県など)から大和を目指した東征の中で吉野山で停滞する一行を道案内し、勝

神武東征の伝説ゆかり

八咫鳥神社 (宇陀市)



利に貢献したとされま
す。また、平安時代の古代

- (住所) 宇陀市榛原高塚42
- (祭神) 建角身命(八咫鳥大神)。
祭神が八咫鳥なのは全国初
- (交通) 近鉄榛原駅からバス「高塚」

- で下車、西へすぐ
- (拝観) 境内自由
- (駐車場) あり(無料)
- (電話) 0745・82・2046

氏族名鑑「新撰姓氏録」で建角身命が八咫鳥に変身したと伝わります。日本書記に続く勅撰の正史「続日本紀」によると、705(慶雲2)年、「八咫鳥の神社を宇太郡に置いた」など記しており、この年が創始

の年とされます。正しい道に導き、勝利に貢献した神として交通安全、厄よけ、必勝祈願に御利益があるそうです。日本サッカー協会のシンボルマークに採用され、2002年の日韓ワールドカップ記念の八咫鳥像が拝殿横にあります。八咫鳥は3本足の印象

ですが、記紀神話に足の数の記述はなく、中国神話で3本足のカラスが「三足鳥」と呼ばれ、太陽にすむとされます。このため、熊野(紀伊半島南部)の太陽を神格化した「太陽信仰」の3本足のカラスと八咫鳥がある時期に混同されたようです。このような壮大な神話の世界に思いをはせながら、お参りください。(奈良まほろばソムリエの会員 田中孝憲)

の会員 田中孝憲)